

祈りが及ぼす患者の回復への影響

山川紘矢／山川亜希子 困ったら絶対に、祈ってみることをお勧めします！



2016年8月19日 4:50

自分のためではなく、他の人々のために祈った体験を、きっと誰もが持っていることでしょう。病気の家族や友人のために祈る、困難な状態にある人々のために祈る、などです。こうした祈りには、大きな効果があることが実験で認められているそうです。

祈りの効果は実験によって認められています

祈りが病人の回復に対して効果的かどうかについて、アメリカではいくつかの研究が行われています。祈りについて多くの著作のあるラリー・ドッシーが、医学専門誌に次のような実験例を発表しています。

カリフォルニア大学で行われた実験では、心臓病の患者 393 人を、192 人と 201 人の 2 つのグループに分けました。そして、192 人のグループにだけ毎日、他の人々から祈りを送ってもらいました。

すると、祈りを送ってもらったグループでは 9 人の病状が悪化したのに対して、送ってもらわなかったグループでは 48 人も悪化したそうです。ただし、この実験結果が本当に科学的に妥当であるかどうかは、認める人もいれば認めない人もいるそうです。

もうひとつは、ミズーリ州の病院での実験です。

1000 人の患者を 2 つのグループに分けて、一方のグループだけに他の人から祈りを送ってもらいました。

すると、祈ってもらったグループの人たちのほうが、10 パーセントも回復が早かったという結果が出たそうです。

また、デューク大学が 1986 年から 1992 年に行った実験もあります。

この実験では、65 歳以上の 4000 人を調査したところ、毎日祈りをささげている人は、祈らない人よりもずっと長生きしたそうです。

祈りを送られる人にも、祈るという行為を行う人にも、祈りはよい効果をもたらすというのです。

いずれも、その結果が本当に祈りの効果を実証しているかどうかについては論争があるようですが、アメリカで祈りの力についてまじめに研究されていることこそが高く評価されてよいのではないかと思います。

誰かが困難な状況にあるとき、相手には知らせなくても、心から愛と祈りを送ってください。それはきっと相手の力になるからです。